



須坂市立小山小学校だより

栃の子だより

平成 28 年 2 月 26 日

No.12

文責：寺島 寿一

あいさつ いのち うんどう・うたごえ えがお おもいやり

校長講話「ゾウの時間 ネズミの時間」

今日は、「ゾウの時間 ネズミの時間」というお話です。

まず、みなさんに時間というものを意識してもらいたいと思います。今日は平成 28 年 2 月 23 日です。平成 28 年が始まって 54 日目で、平成 28 年が終わる 12 月 31 日までは、312 日もあります。一方、平成 27 年度 今のみなさんの学年で考えてみると、登校日数 210 日の中で、卒業式までは 17 日しかありません。何か不思議な感じであり、でもビックリしますよね。

では、それを学年ごとに見てみましょう。1 年間の登校日数を 210 日とすると、1 年生の残りの小学校生活は 1057 日、2 年生は残り 857 日、3 年生は残り 647 日、4 年生は残り 437 日、5 年生は残り 227 日、そして 6 年生は残り 17 日となります。

さらに、比較のために「1 年生の残り時間」と「5.6 年生の過ごした時間」を見てみましょう。1 年生の残りの小学校生活は、先ほど紹介しましたが、1057 日です。そして、5 年生が過ごした小学校生活は 1033 日、6 年生が過ごした小学校生活は 1243 日です。卒業する 6 年生は、「こんなにも小学校生活をがんばって過ごしてきたんだなあ」と尊敬しちゃいますよね。

これまでの例から、時間の感じ方に違いがあることがわかりますね。

「残り時間」は、たくさんあるときは「まだ、いっぱいあるのか」ですが、少なくなると「えっ、もうそれしかないの」となります。また「過ぎ去った時間」も、少ないときは「そんなものか、時間が過ぎるのは遅いなあ」と感じますが、多くなると「そんなにあっただの？ あっという間だった、時間が過ぎるのは早いなあ」となります。

みなさんが「時間が過ぎるのが遅く感じる時」と「時間が過ぎるのが早く感じる時」は、どんな時でしょう。時間が遅く感じる

のは、「勉強や掃除・お手伝いなど、自分がやる気を感じていない時」や「楽しくない時」ではないでしょうか。そして、時間が早く感じるのは「勉強や掃除・お手伝いなど、何か夢中になって取り組んでいる時」や「楽しい時」ですよね。

時間の感じ方には、確かに違いがありますが、時間の流れは絶対的なものであり、与えられている時間はみな平等です。だからこそ、時間は大切に使う必要があるのです。

さて、前置きが長くなりましたが、ここから「ゾウの時間 ネズミの時間」の話に入ります。私たち動物には、心臓があります。その心臓が「1 回ドキン」と打つ時間を「心周期」と言います。人間は約 1 秒、ネズミは約 0.2 秒、ウマは約 2 秒、ゾウは約 3 秒となっています。見ての通り、体のサイズの大きい動物ほど、心周期はゆっくりで、同様に呼吸や筋肉の動きもゆっくりとなります。

そのことから、ゾウの時間は、ネズミの時間に比べて 18 倍ゆっくりと考えられます。つまり、ネズミからゾウを見ると、ただ立っているだけで動かない物体であり、ゾウからネズミを見ると、動きが速すぎる物体としか認識されません。だから、お互いを動物とは認識できないのです。

ゾウの時間 ネズミの時間

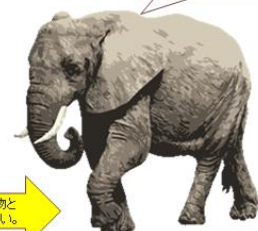
同じ3秒という時間の流れの中で、ネズミの心臓は15~18回打つが、ゾウの心臓は1回しか打たない。

何か動いたけど、生き物？

ちょっと動かぬい。生き物？



お互い動物と認識されない。



変な話ですが、約 45m の高さからゾウとネズミが同時に飛び降りると、地上に到達する時間はどちらも同じ約 3 秒かかります。その間、ネズミの心臓は 15~18 回脈打ちますが、ゾウの心臓は 1 回だけです。ネズミは落ちている間に「あっ、落ちる、落ちる、落ちる、落ちる…どうしよう」と言いながら、いろいろと考えます。しかし、ゾウは「あれえ？」なんて思っているうちにドスンと地面に落ちてしまいます。物理的、絶対的な 3 秒は一緒ですが、ネズミにはネズミの時間、ゾウにはゾウの時間が流れているわけです。

そして寿命について比べてみると、ネズミの寿命は 2~3 年、ゾウの寿命は 70 年となっています。この年数だけを見ると、ゾウの方がはるかに長生きのように見えますが、寿命÷心周期を計算してみると、どちらも 15 億回で、ほぼ同じであることがわかります。つまり、その動物にとって一生を生きた感覚は同じと言えるのです。

そうすると、人間の本当の寿命を気になりますよね。実は、人間の心周期が 15 億回となるのは、26.3 年だそうです。そして、狩りなどで食料を得ていた縄文人という大昔の人の推定寿命は 31 歳でした。これらのことから、人間本来の寿命は 30 歳程度だと言えます。

しかしながら、今は縄文時代とは違って「安定した食料供給」があり、様々な危険や寒さ暑さから守られた「安全な都市・生活環境」があり、さらに病気やけがの治療といった「医療の発達」により、日本人の平均寿命は 80 歳まで伸びています。

平均寿命を延ばし、物理的に限りのある時間を有効活用するために、人間は多くのエネルギーと技術を使っています。その例

が、移動時間の短縮です。

かつて信濃の国から江戸までは徒歩で 10 日かかっていた。しかし、現在は新幹線で 90 分となりました。10 日間と 90 分という時間の差により、私たちは時間を効率的に使えるようになりました。しかし、そのために膨大なエネルギーを消費しており、地球環境に悪影響を及ぼすようにもなっています。だからこそ、私たちは、限られた資源とそれによって生み出された時間を大切にしなければならないのです。

最後に、もう一度「別の時間のスケール」を紹介します。

小学生の平均的な 1 日の使い方は、「睡眠時間 8 時間」「登下校の時間を含む学校の時間 8 時間」「その他の時間 7 時間」…そして、ここに空いている時間が 1 時間分あります。これは小学生として大事な時間「家庭学習の時間」です。これこそ無駄にはできない時間です。

さらに、人生 80 年のスケールで見ると、「睡眠時間 31%」「学校 8%」「その他の時間 39%」となり、「家庭学習」は 2%に過ぎません。そして、みなさんがこれから会社などで仕事を 38 年間した場合は人生の 20%を占めることとなります。また、その他の時間の 16%は定年後の 20 年間の時間が占めています。

みなさんがこれから大学までの学校生活や家庭学習を合わせた 10%の時間の使い方が、未来の仕事の 20%と定年後の 16%を左右することとなります。

人として与えられる時間は平等です。その中の時間の使い方をどう工夫するかは、私たち一人一人の責任となるのです。

(参考文献 「ゾウの時間 ネズミの時間」
本川 達雄 著)



屋部町こども神楽教室のみなさんが、このたび須坂市児童青少年育成会の善行賞を受賞しました。月 2 回のこども神楽教室で練習に励み、墨坂神社等のお祭や地域のイベントに参加・施設への訪問等の活動が評価されたものです。また、3 年生の社会科で「昔の生活・伝統」の学習のひとつとして、こども神楽・獅子舞を披露してくださいました。

善行賞 受賞 おめでとう